

## 台湾から発見されたアカハネエダヒゲコメツキダマシ

鈴木 互<sup>1)</sup>・周 文一<sup>2)</sup><sup>1)</sup>〒 211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科<sup>2)</sup>95941 台湾省台東縣東河郷都蘭村 145-7 號Discovery of *Sarpedon bipectinatus* Fleutiaux (Coleoptera, Eucnemidae) from Taiwan

Wataru SUZUKI and Wen-I CHOU

Summary: *Sarpedon bipectinatus* is recorded from Taiwan for the first time. It was described by Fleutiaux (1896a) based upon two specimens from Tonkin and New Guinea. It is characterized and easily distinguished from the other congeners of the genus by the larger body and the dark red elytra. In 2011, a single individual of this species was found in the edge of broadleaf forest of Mt. Dahanshan, Pingtung County, southern Taiwan.

エダヒゲコメツキダマシ属 *Sarpedon* は、ミゾナシコメツキダマシ亜科 Melasinae のフチトリコメツキダマシ族 Dirhagini に含まれる小さなグループで、日本に 1 種 (*S. atratus* Fleutiaux), 北米に 1 種 (*S. scabrosus* Bonvouloir), ベトナム北部とニューギニアに 1 種 (*S. bipectinatus* Fleutiaux) のわずか 3 種がこれまでに知られているにすぎない (Schenkling, 1928). 成虫は、体形が円柱形に近いことや、触角が雌雄ともに第 3 節より双櫛状を呈すること、爪は単純で切れ込みを持たないなどの特徴から、他のコメツキダマシと識別することは容易である。

筆者の一人、周は台湾南部において見慣れぬコメツキダマシを 1 個体採集した。これを鈴木が調べた結果、原記載ならびにベトナム北部の標本との比較により、インドシナ半島のトンキン (Tonkin) とニューギニアの標本に基づいて Fleutiaux (1896a) により命名記載されたアカハネエダヒゲコメツキダマシ *Sarpedon bipectinatus* であることが明らかになった。本種はこれまでに図示された例がないことに加え、エダヒゲコメツキダマシ属自体が台湾から記録がないので、ここに形態的特徴を図示し、簡単に解説したい。

本稿を草するにあたり、*Sarpedon* 属について有益な情報をくださったアメリカ合衆国ウィスコンシン州の Robert L. Otto 博士に厚くお礼申し上げる。

なお、本研究の一部は、鈴木の方法政大学付属中・高等学校国内研究員制度による支援を受けて行われたものである。

## アカハネエダヒゲコメツキダマシ 紅翅櫛角偽叩頭蟲

*Sarpedon bipectinatus* Fleutiaux, 1896

(Figs. 1-3)

*Sarpedon bipectinatus* Fleutiaux, 1896a: 296–297 (Tonkin; Nouvelle Guinée); Fleutiaux, 1896b: 600–601 (Nouvelle Guinée); Fleutiaux, 1901: 663; Fleutiaux, 1902: 571; Fleutiaux, 1923: 317; Fleutiaux, 1924: 27; Schenkling, 1928: 91 (Neu-Guinea, Tonkin); Fleutiaux, 1947: 56 (Nouvelle-Guinée).

## 形態

雌。体長：12 mm (ベトナム産：10.0–13.0 mm)；体幅：3.3 mm (ベトナム産：2.6–3.7 mm)。

体は太い亜円筒形を呈し、体幅の約 2.8 倍。全体は黒色を呈するが、脚は黒褐色、上翅は暗赤色となる。

頭部は光沢が強く、臍状の点刻で密に被われる。各点刻には直立した短毛を 1 本もつ。縦横縦溝は基半部で明瞭。複眼間の前頭部と複眼のやや内側部には明瞭な凹みをもつ。頭循は粗雑で、一部で皺状となる。触角 (Fig. 1) は短く、先端節は前胸背板後角に届かない。第 1 節は、亜円筒状で内側面は平圧され、外側面はアラメ状となる；第 2 節は球状で小さく、光沢がある；3 節から 11 節は光沢を欠き、双櫛状となる。複眼は小さく、その幅は触角第 1 節のほぼ半分。前胸背板はやや幅広い四角で、かなり強く膨隆する。正中線に沿った 1 本の明瞭な縦溝をもち、中央部の左右には横溝を、基部の左右には円形に近い凹みをもつ (Fig. 2)。前縁に沿って明瞭な前線縁があり、両側は狭く縁取られる (Fig. 1)。表面は頭部に比べより深く密に点刻され、両側部ではアバタ状となる。後角は後方に突出し、先端は鈍くとがる。小楯板は丸みをおびた三角形で、表面は平滑で点刻を欠き、強い光沢を放つ。前胸腹板突起は単純で先端に向かって



Figs. 1–3. *Sarpedon bipectinatus* Fleutiaux, 1896 from Taiwan, ♀. — 1. Head and pronotum, in front-lateral view; 2. habitus, dorsal view; 3. habitus, lateral view.

狭くなる (Fig. 3). 上翅はほぼ並行で、幅の約 2.4 倍。表面は大小不規則な点刻を生じ、一見アバタ状である。条線は深く、間室は第 1・3・5 が隆起するが、第 1 間室の隆起は後半が目立たなくなる (Fig. 2)。脚は短く、脛節は先端に向かって広がり、外縁部が鈍くとがる。後脚基節板は、外側がわずかに幅広いが、ほぼ平行。跗節は第 4 節先端が他節に比べ著しく広がり、前跗節は長く、3 節と 4 節をあわせた長さより長い。爪は単純。

#### 検視標本

1 ♀, Mt. Dahanshan (大漢山), Chunrih Township (春日郷), Pingtung County, Taiwan, 1,300 m in alt., 2. VIII. 2011, W.-I Chou leg. (周保管)。

#### 比較標本

5 ♂♂, Mt. Tam Dao, Vinh Phúc province, Northern Vietnam, V. 1997, local collector; 3 ♂♂, 1 ♀, ditto, V. 1999, local collector; 4 ♂♂, 2 ♀♀, ditto, VII. 1999, local collector (鈴木保管)。

分布. ベトナム (北部), 台湾 [新記録], ニューギニア.

#### 備考

台湾から今回調査することができた個体は雌1個体のみで, 残念ながら雄個体を検することはできなかった. 台湾産の雌個体とベトナム北部の雌個体との比較をすると, 触角の分枝の長さがわずかに短いように感じるが, その他の形質では大きな差は見いだすことができなかった. ベトナム産雌雄の比較では, 雄は雌に比べ, 触角の分枝の長さがより長いこと, 腹部第5節の先端は鈍くとがり, 幅広く丸くなったり, えぐれたりしないなどの違いが認められた.

本個体が採集された場所は, 大漢山 (1,688 m) の標高 1,300 m 付近である. ちょうど吹き上げ採集の良好なポイントとなっているところで, 本個体も吹き上げられて飛翔しているところを採集したものである. 周りの環境は, ブナ科 (Fagaceae) やクスノキ科 (Lauraceae) を中心とした広葉樹林で, 付近には立ち枯れになった樹なども観察された. ここは, 時期になるとミズマホソコバナカミキリ *Necydalis mizumumai* Kusama, 1974 などでも得られる環境でもある.

コメツキダマシは吹き上げで採集される機会は少ないが, 模式産地であるベトナム北部の Tam Dao では, 灯火に集まったものが現地の人により採集されていることから, ライトトラップやライト付の FIT 等を利用すれば, 台湾から未知の雄個体も含め資料の追加が見込めるのではないと思われる. また, 今後の調査により, 食樹や幼虫の形態などが明らかにされることを期待したい.

本種はエダヒゲコメツキダマシ属の中でもっとも特徴のある種で, 体が大型であることや, 上翅

が暗赤色で粗く点刻されることなどの形質をもつことにより, 他のエダヒゲコメツキダマシ属の種との区別は容易である. 大型で触角が双櫛状になるという点では, ベトナム, 台湾, 日本に分布するクロクシヒゲコメツキダマシ *Procladidus coomani* Fleutiaux, 1927 にも似るが, 前胸腹側板の触角溝を欠くことや前胸背板前縁に明瞭な前隆線が存在することで, 後者と識別することができる.

#### 引用文献

- Fleutiaux, E., 1896a. Collection des Eucnemidae du Muséum d'Histoire Naturelle de Paris. Mémoires de la Société Zoologique de France, 9: 278–315.
- Fleutiaux, E., 1896b. Eucnémides Austro-Malais du Musée Civique de Gênes. Annali del Museo Civico di Storia Naturale di Genova, 36: 555–606.
- Fleutiaux, E., 1901. Essai d'une classification des Melasinae (Eucneminae des auteurs). Annales de la Société Entomologique de France, 70: 637–664.
- Fleutiaux, E., 1902. Contributions a la faune Indo-Chinoise (Indo-chine Française) 18e Mémoire Deuxième addition aux Cicindelidae et Elateridae. Annales de la Société Entomologique de France, 71: 569–580.
- Fleutiaux, E., 1923. Les Melasidae du Japon (Coléoptères). Annales de la Société Entomologique de France, 91: 291–328, pl.6.
- Fleutiaux, E., 1924. Faune Entomologique de l'Indochine Française. 1. Coléoptères Serricornes Fam. Melasidae. Opuscules de l'Institut Scientifique d l'Indochine, Saigon, (7): 5–184.
- Fleutiaux, E., 1947. Révision des Eucnémides (Coléoptères) de L'Indochine Française. Notes d'Entomologie Chinoise, 9(1): 1–68.
- Schenkling, S., 1928. Melasidae. Pars. 96. In: Schenkling, S. (ed.): Coleopterorum Catalogus. Berlin: W. Junk, 110 pp.

(2012年10月24日受領, 2012年12月10日受理)

#### 【短報】対馬で採集されたアイヌツヤヒメコメツキダマシの記録

対馬のコメツキダマシについては, これまでに 14 種が記録されているが (鈴木, 2010), 最近譲り受けた標本の中から, 対馬から記録のなかったアイヌツヤヒメコメツキダマシ *Xylophilus ainu* (Fleutiaux, 1923) を見いだすことができたので, ここに記録しておきたい.

1ex., 長崎県対馬龍良山, 27. V. 2012, 西野久雄採集 (筆者保管).

今回の記録も含めた本種の分布は, 北海道, 本州, 九州, 対馬; 極東ロシア, 韓国, 濟州島となり, 日本海を取り囲んだ地域に広く生息していること

になる.

末尾ながら, 貴重な標本をお譲りいただいた東京都の西野久雄氏に感謝したい.

#### 引用文献

- 久松定成, 1985. コメツキダマシ科, pp. 42–51 (pls. 8–9). 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III). 保育社, 大阪.
- 鈴木 互, 2010. 対馬のコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (172): 11–12.

(鈴木 互 法政大学二高等学校生物科)